

と指摘。これに対して「店舗においては、防犯カメラの設置などの対策が広く浸透してきた。警察との連携が緊密になってきたというのも、大きな変化だ」と振り返った。

次いで、「関係者が連携して多様な取り組みを進めてきたが、根本的な解決には至っていない。まだまだ検討しなければいけない課題が多くあり、警察や行政と連携した活動を推進することで、被害者サイドに大きな利益をもたらす活動を一層進めていくとともに、犯罪の抑止、経済の発展といった公に資することにつながっていくはずだ」と、さらなる努力を誓った。

通常総会においては、ネット上における不正品の流通防止に向けた提言を取りまとめた。古物の売買は盗品等の処分市場として利用されやすい側面があることから、「インターネットオークションにおける不正品流通の監視体制強化」「品触れへの対応等、小売業界・警察との情報交換体制の構築」「業界による盗品売買等防止団体の設立」について訴えていく。

★「青少年意識調査」「被害実態調査」を解説

万引に対する規範意識に男女差、悪さの度合いは喫煙と同等

通常総会に続いて第2部を開催し、「万引に関する全国青少年意識調査に関する分析」と「全国万引被害実態調査」について解説。さらに、高齢者万引対策・防犯画像・集団窃盗等——について調査研究している各小委員会について、中間報告を行なった。

「第九回万引に関する全国青少年意識調査分析報告書」について、北海道大学の瀧川哲夫名誉教授が取り上げ、①万引に対する「表面的な」規範意識は高止まりしている②青少年では万引の悪さは喫煙くらいか③生活満足度は多くの回答に関係している④青少年では規範意識に男女差がある——旨説明した。

今回の調査のうち、「万引しやすい店を知っているか」という問いに対して、「知っている」と回答した中学生は15・9%、高校生は15・2%。その中で、「万引しやすい店の種類」としては、「駄菓子屋」(中34・5%、高25・4%)▽「スーパー」(中19・6%、